患者さん及び手の診療をされる医師へ　国際共同研究への参加のお願い

【研究課題】

切断指の治療方針決定に及ぼす地理的・文化的影響：国際多施設アンケート調査

【研究代表者】

Department of Orthopedic Surgery, NYU Langone Health, Dr. Jacques Henri Hacquebord

【共同研究者】

岐阜大学　整形外科　河村真吾（日本代表者）
金沢大学附属病院　整形外科　多田薫
大阪大学大学院医学系研究科　器官制御外科学講座　整形外科学教室　宮村聡
JR 大阪鉄道病院　整形外科　上村卓也

【研究目的】

切断指の治療には大きく分けて切断指再接着術と断端形成術があります。どちらが優れているかは結論がでておらず、さらに手術適応においては、医師、患者の人種、生活地域、信条等が大きく影響しています。しかし、世界各国の個々の患者において、最適な治療方法はどちらであるか、その理解は未解明である。そのため、指切断患者に対して、満足度の高い治療を提供するために、治療選択への地理的・文化的影響を理解することが必要です。

本研究は、世界各国における患者及び術者に対して、切断指再接着術と断端形成術に対する期待度、社会的影響度に関するアンケートを実施することで、指切断治療についての地理的・文化的影響を理解し、最適な治療方針を明らかにすることを目的としています。

【研究方法】

患者さん（切断指治療歴の有無を問わない）及び手の診療をされる医師を対象に、無記名アンケート（別紙）を配布する。Google Form を用いてアンケートデータを NYU Langone Health へと送信する。

皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

国際共同研究　日本代表者
岐阜大学　整形外科
河村　真吾